

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の設置								
フリガナ設置者	ガッコウホウジン ソウカダイガク 学校法人 創価大学								
フリガナ大学の名称	ソウカダイガク ダイガクイン 創価大学 大学院（Soka University Graduate Schools）								
大学本部の位置	東京都八王子市丹木町1丁目236番地								
大学の目的	創価大学大学院は、創立者池田大作先生の建学の精神に基づき、学校教育法により、学部基礎の上に、さらに高度にして専門的な学術の理論および応用を教授研究し、その深奥を究めて、広く文化の進展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的	国際平和学研究科国際平和学専攻は、グローバル化が進展する社会が求める高度の専門的職業人材の養成を目的として、本学が推進してきた学部教育の国際的通用性と質保証の成果を基盤に、「国際関係論」と「平和学」を含む「国際平和学」を対象として研究と教育を行い、政策構想力と提言力を涵養する少人数教育を実践する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	開設時期及 び開設年次	所在地	【基礎となる学部】 国際教養学部 国際教養学科
	国際平和学研究科 [School of International Peace Studies]	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次	東京都八王子市丹木町 1丁目236番地	
	国際平和学専攻 (M) [Division of International Peace Studies]	2	16	-	32	修士 (国際平和学)	平成30年4月 第1年次		
計	2	16	-	32					
同一設置者内における 変更状況 (定員の移行, 名称の 変更等)	創価大学 経済学部経済学科【定員減】(△10) 【3年次編入学定員増】(18) (平成30年4月) 法学部法律学科【定員減】(△10) 【3年次編入学定員増】(8) (平成30年4月) 文学部人間学科【定員減】(△20) 【3年次編入学定員増】(40) (平成30年4月) 経営学部経営学科【定員減】(△10) 【3年次編入学定員増】(26) (平成30年4月) 国際教養学部国際教養学科【定員増】(10) (平成30年4月) ※上記の収容定員変更に係る学則変更については平成29年3月認可申請 通信教育部文学部人間学科 (750) 【3年次編入学定員】(100) (平成29年3月認可申請) 創価女子短期大学 平成30年4月名称変更予定 現代ビジネス学科→国際ビジネス学科【定員増】(100) (平成29年4月届出予定) 英語コミュニケーション学科(廃止) (△100) ※平成30年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	国際平和学研究科 国際平和学専攻	講義	演習	実験・実習	計	32単位			
		17科目	3科目	2科目	22科目				

教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設			人	人	人	人	人	人	
		国際平和学研究科 国際平和学専攻		4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)
分	計		4 (4)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	— (—)
員	既	文学研究科 国際言語教育専攻 (修士課程)	6 (6)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
		経済学研究科 経済学専攻 (博士前期課程)	17 (17)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	5 (5)
組		法学研究科 法学専攻 (博士前期課程)	13 (15)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (15)	0 (0)	5 (6)
		文学研究科 英文学専攻 (博士前期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
織		文学研究科 社会学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 教育学専攻 (博士前期課程)	9 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	12 (13)	0 (0)	7 (7)
設		文学研究科 人文学専攻 (博士前期課程)	13 (14)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (16)	0 (0)	5 (5)
		工学研究科 情報システム工学専攻 (博士前期課程)	11 (11)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	1 (1)
の		工学研究科 生命情報工学専攻 (博士前期課程)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	1 (1)
		工学研究科 環境共生工学専攻 (博士前期課程)	9 (9)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	2 (2)
概		経済学研究科 経済学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	0 (0)
		法学研究科 法学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
分		文学研究科 英文学専攻 (博士後期課程)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 社会学専攻 (博士後期課程)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
要		文学研究科 教育学専攻 (博士後期課程)	6 (7)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (7)	0 (0)	0 (0)
		文学研究科 人文学専攻 (博士後期課程)	8 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (9)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 情報システム工学専攻 (博士後期課程)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 生命情報工学専攻 (博士後期課程)	9 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		工学研究科 環境共生工学専攻 (博士後期課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
		法務研究科 法務専攻 (専門職課程)	11 (12)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	25 (25)
		教職研究科 教職専攻 (専門職課程)	5 (5)	4 (5)	3 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
		計	191 (198)	34 (35)	5 (4)	0 (0)	218 (225)	0 (0)	— (—)
		合計	195 (202)	38 (39)	5 (4)	0 (0)	226 (233)	0 (0)	— (—)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		172 人 (172)	65 人 (65)	237 人 (237)					
	技 術 職 員		5 (5)	0 (0)	5 (5)					
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)	2 (2)	9 (9)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	28 (28)	28 (28)					
	計		184 (184)	95 (95)	279 (279)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	262,997.08 m ²	0 m ²	0 m ²	262,997.08 m ²					
	運 動 場 用 地	108,423.08 m ²	0 m ²	0 m ²	108,423.08 m ²					
	小 計	371,420.16 m ²	0 m ²	0 m ²	371,420.16 m ²					
	そ の 他	371,326.19 m ²	0 m ²	0 m ²	371,326.19 m ²					
	合 計	742,746.35 m ²	0 m ²	0 m ²	742,746.35 m ²					
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計						
	165,977.78m ² (165,977.78m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	165,977.78m ² (165,977.78m ²)						
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設		大学全体			
	79室	94室	12室	14室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数						
	国際平和学研究科 国際平和学専攻			8 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共 用分 図書： 940,997冊 (940,997冊) 雑誌： 6,134種 (6,134種)		
	国際平和学研究科 国際平和学専攻	940,997 [262,285] (940,997 [262,285])	6,134 [1,452] (6,134 [1,452])	15,408 [14,139] (15,408 [14,139])	14,555 (14,555)	503 (503)	0 (0)			
	計	940,997 [262,285] (940,997 [262,285])	6,134 [1,452] (6,134 [1,452])	15,408 [14,139] (15,408 [14,139])	14,555 (14,555)	503 (503)	0 (0)			
図 書 館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数						
	8,763.80 m ²	1,200 席		1,290,079 冊		大学全体				
体 育 館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	13,585.06 m ²	陸上競技場、野球場、ラグビー場								
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次	
		教員 1 人 当 り 研 究 費 等		430千円	430千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共 同 研 究 費 等		0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図 書 購 入 費	2,000千円	2,000千円	2,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		設 備 購 入 費	0千円	0千円	0千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
		854千円	608千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、資産運用収入							

大学等の名称	創価大学								所在地
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		
	年	人	年次人	人		倍			
経済学部 経済学科	4	200	—	800	学士(経済学)	1.08	昭和46年度	東京都八王子市丹木町1丁目236番地	
法学部 法律学科	4	250	—	1,000	学士(法学)	1.06	昭和46年度		
文学部 人間学科	4	370	—	1,480	学士(文学)	1.07	平成19年度		
経営学部 経営学科	4	200	—	800	学士(経営学)	1.09	昭和51年度		
教育学部						1.07			
教育学科	4	80	—	320	学士(教育学)	1.07	昭和51年度		
児童教育学科	4	100	—	400	学士(教育学)	1.06	昭和51年度		
理工学部						1.08			
情報システム工学科	4	80	—	310	学士(工学)	1.04	平成3年度		
共生創造理工学科	4	100	—	300	学士(理工学)	1.11	平成27年度		
生命情報工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成3年度		
環境共生工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成15年度		
看護学部 看護学科	4	80	—	320	学士(看護学)	1.05	平成25年度		
国際教養学部 国際教養学科	4	80	—	320	学士(国際教養学)	1.12	平成26年度		
[通信教育部]									
経済学部 経済学科	4	2,000	—	8,000	学士(経済学)	0.07	昭和51年度		
法学部 法律学科	4	2,000	—	8,000	学士(法学)	0.06	昭和51年度		
教育学部						0.34			
教育学科	4	300	—	1,200	学士(教育学)	0.55	昭和57年度		
児童教育学科	4	350	—	1,750	学士(教育学)	0.21	昭和57年度		
[大学院] (修士課程)									
文学研究科 国際言語教育専攻	2	15	—	30	修士(教育学)	0.87	平成21年度		
[大学院] (博士前期課程)									
経済学研究科 経済学専攻	2	15	—	30	修士(経済学)	0.57	昭和50年度		
法学研究科 法学専攻	2	15	—	30	修士(法学)	0.40	昭和50年度		
文学研究科						0.46			
英文学専攻	2	10	—	20	修士(英文学)	0.15	昭和50年度		
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.40	昭和50年度		
教育学専攻	2	15	—	30	修士(教育学)	0.83	昭和61年度		
人文学専攻	2	8	—	16	修士(人文学)	0.44	平成4年度		
工学研究科						0.88			
情報システム工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	0.92	平成7年度		
生命情報工学専攻	2	20	—	40	修士(工学)	0.80	平成7年度		
環境共生工学専攻	2	25	—	50	修士(工学)	0.92	平成19年度		

既設大学等の状況

平成27年度入学定員増(10人)

平成27年度より学生募集停止

平成27年度より学生募集停止

平成27年度入学定員減(△350人)

附属施設の概要	<p>名 称：平和問題研究所 目 的：平和の達成に関する諸問題の調査・研究 設置年月：昭和51年4月 規 模 等：建物 32.86㎡（文系校舎内の7階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	
	<p>名 称：比較文化研究所 目 的：日本及び世界の文化に関する諸問題の比較研究 設置年月：昭和56年11月 規 模 等：建物 32.86㎡（文系校舎内の8階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	
	<p>名 称：生命科学研究所 目 的：生命並びにそれに関連する諸問題についての科学的な研究 設置年月：昭和63年12月 規 模 等：建物 1,783.00㎡ 実験室18室、研究室6室、教室1室、自習室2室、暗室2室、測定室2室、洗浄室1室、遠心機室1室、培養室1室、分配調合室1室、貯蔵室1室、廃棄物保管室1室、汚染検査室1室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	
	<p>名 称：国際仏教学高等研究所 目 的：仏教の思想・哲学の特徴と現代的意義に関する研究 設置年月：平成9年4月 規 模 等：建物 811.90㎡（文系校舎別館の2階）研究室5室、リファレンス室1室、書庫2室 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	
	<p>名 称：法科大学院要件事実教育研究所 目 的：法科大学院における要件事実教育の充実と発展を図るための調査研究 設置年月：平成16年10月 規 模 等：建物 24.00㎡（本部棟校舎内の12階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	
	<p>名 称：創価教育研究所 目 的：創価教育の思想と実践の研究 設置年月：平成18年4月 規 模 等：建物 1,218.00㎡（文系校舎内の8階） 設置場所：東京都八王子市丹木町一丁目236番地</p>	

(注)

- 1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 3 私立の大学又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要														
(国際平和学研究科国際平和学専攻)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
C o o r s e s	International Relations Theory	1前	4			○			1					
	Peace and Global Citizenship	1前	4			○			1					
	Seminar I (Research Design)	1後	2				○		2	3				
	Seminar II (Research Conduct)	2前	2				○		2	3				
	Seminar III (Master's Thesis)	2後	2				○		2	3				
	小計 (5科目)	—	14	0	0		—		2	3	0	0	0	
R e g i o n a l s t u d i e s	Theory of European Integration	1・2後		2		○			1					
	International History of Imperialism	1・2後		2		○								兼1
	Region and Institution Building in the Asia Pacific	1・2後		2		○			1					
	International Political Economy	1・2前		2		○				1				
	Public Policy for Global-Regional Development	1・2前		2		○				1				
	Political Economy of International Trade and Finance	1・2後		2		○				1				
	State Building in Africa	1・2前		2		○				1				
	小計 (7科目)	—	0	14	0		—		2	2	0	0	0	兼1
E l e c t i v e s	Civil War and Peace Processes	1・2前		2		○				1				
	Ethnic Conflict and Resolution	1・2後		2		○				1				
	Global Justice and Pragmatism	1・2後		2		○			1					
	Human Security and Human Rights	1・2後		2		○			1					
	Critical Race and Gender Studies	1・2後		2		○				1				
	Women's Studies	1・2前		2		○				1				
	Philosophy and Human Rights	1・2前		2		○				1				
	Globalization and Migration	1・2後		2		○				1				
小計 (8科目)	—	0	16	0		—		2	3	0	0	0		
I n t e r n s h i p s	Internship I	1通		2		※		○	1					インターン シップの参 加前に3時 限、参加後 に2時限の講 義を実施す る
	Internship II	2通		2		※		○	1					インターン シップの参 加前に3時 限、参加後 に2時限の講 義を実施す る
	小計 (2科目)	—	0	4	0		—		1	0	0	0	0	
合計 (22科目)		—	14	34	0		—		4	4	0	0	0	兼1
学位又は称号		修士 (国際平和学)			学位又は学科の分野			法学関係						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
○修了要件 本研究科に2年（通算4学期）以上在学して、以下の履修方法で32単位以上を修得し、修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。 ○履修方法 Core Courses（全科目必修）14単位、Electives18単位以上（但しInternational RelationsとPeace Studiesからそれぞれ6単位以上を含む）を履修する。履修科目の登録上限を10単位（1学期）とする。なお、履修科目の登録上限に、Internships科目の単位数は含めない。	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	15週
	1 時限の授業時間	90分

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
(国際平和学研究科国際平和学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Core Courses	International Relations Theory	<p>This course presents the major theories of international relations (IR) and helps to understand how foreign policy is made and how states interact bilaterally, regionally and globally. It integrates IR theory with IR history, analyses the causes of wars and the establishment of alliances and shifts in the balance of power. IR theories describe and explain existing phenomena and provide answers as to how people and states deal with one another. The course examines the democratic peace theory, explores the development of international institutions and cooperation between states, debates the humanitarian intervention and responsibility to protect. It guides students how to use the study of IR as to understand contemporary international issues and address the current reality. It presents testable hypotheses linking causes and effects.</p> <p>「国際関係の理論」：当科目は、国際関係に関する主要な理論を学び、国家の外交政策の形成過程を理解し、国家間関係・地域的秩序・国際システムの展開を分析する。まず、国際関係の理論と歴史の研究を架橋し、国家間の戦争の原因、同盟の形成、パワーバランスの変化について分析する。さらに、民主的平和論を検証し、国際機構の発展や国家間の協力の展開の可能性を考察し、国家による人道的介入の責任等について考察する。学生は、国際関係の諸理論を様々な国際問題に適用し、理論的因果関係の検証に取り組むことが求められる。</p>	
	Peace and Global Citizenship	<p>Together with the International Relations Theory class, this class constitutes the two required courses in the first semester, and deals with major theoretical issues in the field of peace studies regarding the causes of conflicts among various state and non state actors, and the institutions and procedures for their resolution. Major topics in the course are inter-state and civil wars, state and non-state violence, terrorism, poverty, inequality and marginalization, the ethical implications of scientific and technological progress, new forms of governance and international regimes for addressing arms proliferation, climate change and world poverty, civic participation and democratic innovation, social movements and global activism, social differences around gender, class, race, ethnicity and their implications for building equitable human interactions. In order to shed a new light on the analysis of these topics in peace studies, the course tries to explore the concept of global citizenship, which is regarded as an ultimate goal of the School of International Peace Studies as well as a source of creative approach toward the discipline. In this class, students are expected to have a better understanding of concrete cases of conflicts in the current world, and to find out a particular theme of interests for their own study in the program.</p> <p>「平和・世界市民論」：当科目は1年次前期の必修科目として配置し、従来の平和学研究において主要な研究テーマとされてきた非国家主体が関わる様々な紛争の原因とその解決のための制度・手続を主要な学修対象とする。さらに、研究科がその人材像として掲げるGlobal Citizenship（世界市民）概念を平和学研究の各分野の成果を踏まえつつ探求する。当科目の学修を通じて学生は、自身の研究テーマを選び出すという視点から、今日のグローバル社会における各種の具体的な対立・紛争の事例・事態への理解を深める。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Core Courses 【続き】	Seminar I (Research Design)	<p>The academic advisor of each student will teach this class. The primary goal of this class is to help students to choose a research topic of their master's thesis, and to develop a research design for the thesis. Through a seminar class each week, students will acquire academic skills to set up a research topic, to explore preceding research achievements on the topic, and to choose appropriate methodological approaches for the topic. Students also receive a guidance on academic ethics and integrity required in their research activities. At the end of this course, students complete a research design for their master's thesis, which is to be reviewed and approved through the interview by the thesis evaluation committee.</p> <p>「セミナーI：リサーチデザイン」：当科目は各学生の指導教員が担当する。当授業では、学生の修士論文の研究テーマの設定と研究計画の策定に主眼を置き、毎週の演習形式の授業を通じて研究課題の設定の仕方、先行研究の調査方法、研究方法の構築などについて指導する。また、研究倫理の徹底を指導し、特に剽窃・不正防止教育を行う。当科目で学生は修士論文作成に向けた研究計画書 (Research Design) を提出し、研究テーマの妥当性と研究計画の実行可能性に関して修士論文指導委員会が口頭試験により審査と承認を行う。</p>	
	Seminar II (Research Conduct)	<p>The academic advisor of each student will teach this class. Based upon the research design made in the class of Seminar I, each student in this class conducts his/her own research activities such as the review of related literatures, the construction of theoretical hypotheses, and the collection and analysis of necessary data, while receiving academic advice from the advisor through weekly seminar sessions. If students plan to engage in a research project the subject of which focuses on the behavior of people, the advisor will make sure that the students will have their research plans approved by the University Committee for Academic Ethic and Integrity before they conduct concrete research activities, and that they receive an informed consent in an official document form from each of the people subjected for the research.</p> <p>「セミナーII（リサーチコンダクト）」：当科目は各学生の指導教員が担当する。Seminar Iで学生が作成した修士論文の研究計画書に沿った研究活動の具体的な遂行に主眼を置き、毎週の演習形式の授業を通じて指導教員が研究の進捗状況を確認し、研究計画の遂行に必要な各種の課題を指導する。学生の研究活動が、学内外の人を対象とする調査を含む場合は、研究・調査対象者のインフォームド・コンセントを厳密に求め、さらに指導教員が適当と判断する場合には、事前に本学の研究倫理委員会の承認を得るように指導する。</p>	
	Seminar III (Master's Thesis)	<p>The academic advisor of each student will teach this class. Students in this class are to complete their respective master's thesis while receiving necessary academic guidance from their advisors through weekly seminar sessions. Students are expected to submit their master's thesis by a designated submission date (usually in early January according to the university calendar). Upon the reception of a master's thesis which will be first subject to the documentation check by the online services of turnitin.com, the Master's Thesis Evaluation Committee will conduct the final review of the thesis.</p> <p>「セミナーIII（修士論文指導）」：当科目は各学生の指導教員が担当する。授業では、学生の修士論文の完成を目指し、毎週行われる演習形式の授業を通じて指導教員が修士論文執筆に必要な指導をする。学生は、所定の時期（本学の学事歴による通例は1月上旬）までに修士論文を提出する。修士論文の提出を受け、修士論文審査委員会が、学術論文の国際的なオンラインチェックサービス (turnitin.com) を利用して、剽窃・不正等の有無を確認した上で、修士論文に関する最終試験を実施する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives	International Relations	Theory of European Integration	<p>This course is an introduction to the causes and nature of Regional Integration on the example of European Integration. The topic is presented from a historical, social scientific and normative perspective: We critically examine various theories of, and current debates about European and Regional integration by studying the process of integration, its effects and its constitutional character. The course is designed accordingly. The first part of the course analyzes different stages in the integration process, asking why and how member states surrendered more and more power to European institutions. The second part discusses a number of big questions that this transfer of power raises. For example, what are the consequences of the single market and currency on the national welfare state? How does the supranational legal work? What is the source of the EU's power in world politics? Is there a democratic deficit in the EU, and what does it consist of? We conclude by reflecting on the Eurocrisis, Brexit and the future of European integration in a ever changing global environment. At the end of the course you will have some insight into the theoretical explanations of integration; a closer understanding of the core issues in the EU as well as its structural working; you will also gain some knowledge how to compare the EU integration process with other attempts of regional integration.</p> <p>「ヨーロッパ統合論」：当科目は、ヨーロッパ統合を例として国際的地域統合の原因と性質を分析する。特に、ヨーロッパ統合の過程、影響、制度的特徴に関し、歴史的、社会科学的、倫理的な観点から分析を加え、ヨーロッパ統合と地域統合一般に関する諸理論を学修する。まず、ヨーロッパ諸国が統合的な諸制度を受け入れてきた各段階を批判的に分析し、続いて英国によるEU離脱決定後のヨーロッパ統合を巡るさまざまな理論的問題を論じる。さらに、EUと他地域とを比較し、EUの独自の側面と他地域と共通する側面を分析する。</p>
	International Relations	International History of Imperialism	<p>This course will consider issues of the international history by exploring the 'legacy of imperialism' -- remaining influence of the imperialistic world order -- in the postcolonial world. In particular, we examine the reasons for and consequences of the growing gap between the substantive economic and political power of non-Western world (e.g. of BRICS nowadays) and the ideational, ideological and 'universal' power of the West (e.g. of international law). In doing so, we will consider how the decolonization (i.e. the end of empires) shaped the international society in the second half of the twentieth century.</p> <p>「国際帝国主義史」：当科目はポスト植民地時代と言われる世界においても残っている帝国主義的な世界秩序の影響すなわち「帝国主義の遺産」を探求しながら、国際社会の歴史的展開を考察する。特に、BRICsなどの非西洋的で実体的な経済力・政治力と、国際法など西洋的で観念的、理念的かつ普遍的な力の違いがますます際立っている状況がつくられた原因を検証する。これにより、20世紀後半の「帝国の終焉」と言われる植民地解放の過程が、どのように国際秩序を形成したのかを分析する。</p>
	International Relations	Region and Institution Building in the Asia Pacific	<p>This course analyzes the regional institution building process in the Asia Pacific. As a theoretical framework for the analysis, the theory of state building, regional integration theory, interdependence/regime theory, the theory of multilateralism and multi-party negotiation will be critically reviewed. Then, the role of three major powers, i.e. the United States, China, and Japan will be analyzed. Finally, comparative case studies will be conducted respectively on the US-centered alliance network in the region, ASEAN, APEC, ASEAN Plus Three, the Six Party Talk process on the North Korean nuclear issue, and the East Asia Summit.</p> <p>「アジア太平洋における地域・制度構築論」：当科目は、アジア太平洋の地域的国際機構の形成過程を分析する。まず、国際的地域機構形成に関する理論枠組みとして、国家形成論、地域統合論、相互依存・レジーム論、多国間主義・多国間交渉論を学ぶ。次に、米国、中国、そして日本の政策が同地域の制度化に及ぼす影響を分析する。最後に、同地域の制度化の例として、米国中心の同盟網、ASEAN、APEC、ASEANプラス3、北朝鮮核問題をめぐる六か国協議、東アジアサミット等を比較研究し、今後のアジア太平洋地域の制度化を展望する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	International Relations 【続き】	<p style="text-align: center;">International Political Economy</p> <p>The course introduces students to key aspects of International Political Economy (IPE), providing an overview of the main themes in the field. The first part examines the core components of what could be described as the discipline of IPE, emphasizing the relation between the international economy and politics. Theoretical debates are examined, such as the differences between liberal, Marxist, and realist approaches, as well as constructivist IPE and other alternatives. The core focus of the course concerns historical and recent issues, from the late-nineteenth century until the present, including developments such as the so-called 'first era of globalization' before the First World War; to interwar and postwar trends, especially the postwar Bretton Woods system, the subsequent period of economic liberalization and deregulation from the 1980s, and then the 2008 global financial crisis and its consequences.</p> <p>「国際政治経済学」：当科目は国際政治経済学の主要テーマを学ぶ。まず、国際政治と国際経済の関連に着目し、国際政治経済学の成り立ちを分析する。続いて、リベラリズム、マルクス主義、リアリズム、構成主義等、国際政治経済学の主要なアプローチをめぐる議論を検証する。当科目が対象とするのは19世紀末以降現在までの国際政治経済をめぐる事象であり、第一次大戦期から戦間期、第二次大戦後のブレトンウッズ体制の成立とその後の変容、1980年代以降の規制緩和、さらには2008年の世界経済危機やその後までを含む。</p>	
	Public Policy for Global- Regional Development	<p>The course focuses on how public policymaking has contributed to global-regional development and regional integration processes since the mid-twentieth century. Regional cooperation has intensified since the 1980s, first in the European Union and then in other global-regions, including Africa, East Asia, plus North and South America. Public policy and regional governance has developed through new institutions and forums, with the more formal and complex processes and institutionalization of the European Union; to the much more limited, trade-focused integration constituted through the North American Free Trade Agreement (NAFTA). The Asia-Pacific region is particularly interesting, due to the new innovations and competing trends, such as the Trans-Pacific Partnership (TPP) and the Regional Comprehensive Economic Cooperation (RCEP) agreements; as well as earlier forms of regional integration such as the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) and the Asia-Pacific Economic Cooperation (APEC) forum.</p> <p>「世界的、地域的な開発のための公共政策」：当科目は、20世紀半ば以降の各国や国際機構の経済政策がグローバル、及びリージョナルな地域統合過程に与えた影響について学ぶ。経済的開発のための地域協力は1980年代以降、欧州以外のアフリカ、東アジア、北米、南米など各地域で強化されてきた。まずフォーマルな国際的枠組や会議を通じ、広範な共通政策とガバナンスを発展させたEUと、同様のフォーマルな枠組を貿易分野限定で導入したNAFTAを検証し、続いて、よりインフォーマルで多様な枠組の進展がみられる他地域を比較分析する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	International Relations 【続き】	Political Economy of International Trade and Finance	<p>This course focuses on the political economy and global governance of international trade and finance since the twentieth century. It begins by examining the interwar and postwar origins of global economic governance, through cooperation between the advanced industrialized states and the first forms of institutionalization, with the Bank for International Settlements (BIS) established in the 1930s and the Bretton Woods institutions in the 1940s. The rest of the course analyzes how leading states attempted to manage the transition to a more open international economy after the 1970s, especially developments such as financial liberalization and free-floating currencies. It then examines the significance of the main formal and informal institutions and fora that govern international trade and finance; while the final part of the course analyzes the key contemporary issues for global governance of these issues in the twenty-first century.</p> <p>「国際通商・金融に関する政治経済学」：当科目は、国際通商・金融に関する政治経済学分析とグローバルな経済ガバナンスについて学ぶ。まず国際決済銀行やブレトンウッズ体制など、戦間期と戦後における世界経済ガバナンス体制を検証する。続いて、70年代以後の変動相場制への移行や金融政策の自由化等、よりオープンな国際経済への過渡期における対応を分析する。さらに、80年代以降の国際経済システムの変容において公的・非公的な組織や会議が果たした役割を検証し、最後に現在の世界経済ガバナンスが抱える諸課題を考察する。</p>
	State Building in Africa	<p>This course provides a survey of post-colonial politics in the states of Sub-Saharan Africa, concentrating on the events since independence to the present. This course primarily focuses on the current issues of political and economic development within Africa. Such aspects as the state and state institutions, democracy, party systems, military coups and rule, bureaucracy and corruption, ethnicity, national and regional integration, political violence and civil conflict, as well as various economic strategies for development will receive primary attention.</p> <p>「アフリカにおける国家形成論」：当科目は、サブサハラ・アフリカ諸国のポスト植民地時代、特に独立達成から現在までの時期に注目しながら、この地域の政治について学ぶ。この科目はアフリカにおける政治的・経済的發展にかかわる現在の諸課題を対象とするが、特にアフリカ諸国における国毎の多様な経済発展方策のほか、国家と国家制度の在り方、民主主義、政党制、軍隊組織によるクーデターと支配、官僚制と腐敗、民族性、国家や地域の統合、政治的暴力と国内の軋轢などを主要な研究課題とする。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	Peace Studies	<p style="text-align: center;">Civil War and Peace Processes</p> <p>This course is deigned to introduce students to comparative experiences of civil war and peace processes with the following key questions in mind: why do civil wars breakout in some countries and not others? What impact do the varying social and ethnic contexts have on civil war? Are civil wars different from other types of war? Why do some civil wars end in negotiated peace while others do not? What is the role of negotiation, mediation, postconflict development during peacebuilding in civil war contexts? The course is organized around some key topics in the recent scholarly literature.</p> <p>「内戦と和平プロセス」：当科目は、以下のような基本的な問題点を設定し、内戦と和平プロセスに関する比較分析を行う。なぜ内戦が起こる国と起こらない国があるのか？様々な社会的・民族的状況は内戦にどのような影響を与えるのか？内戦は戦争と異なるのか？和平交渉によって終結する内戦とそうでない内戦があるのはなぜか？内戦の和平を目指す脈絡において、交渉や調停、紛争後の復興計画にはどのような役割があるのか？なお、当科目は最近の学術文献に見られる重要課題に沿って進められる。</p>	
	Peace Studies	<p style="text-align: center;">Ethnic Conflict and Resolution</p> <p>This course examines the claims of the state and various ethnic groups in countries undergoing internal conflicts most frequently over the issues of group identity. We will also analyze the complex role of the international community in facilitating the peaceful resolution of such conflicts. The course begins by analyzing the nature of ethnicity and ethnic conflict, and then looks at the political main means of regulating such conflicts (democracy, power sharing, coercive exchange, and authoritarianism). In doing so, it looks at ethnic demands upon the state and the state's responses to these demands. However, when the demands are presented in a non-negotiable manner and intense conflict surfaces, the conflict tends to become internationalized. This leads, in the later part of the course, to a focus on the international community's role in containing conflict and facilitating its peaceful resolution. Although the course is mainly concerned with process and looks at cases in the world over, special attention will be given to conflicts in Sub-Saharan Africa.</p> <p>「民族紛争と解決」：当科目は、集団のアイデンティティをめぐる紛争下にある国家と民族集団の主張について検討し、民族集団の国家に対する要求がうまく受け入れられずに要求が過激化すると紛争が国際化する傾向のあることを検証し、このような紛争の平和的解決をすすめる国際社会の複合的な役割について分析する。また、民族や民族紛争の本質を分析するところから始め、民主制、権力共有といった紛争を統制する主な政治的手段について検討していく。なお、アフリカ、サブサハラにおける紛争事例を特に注目して取り上げる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	Peace Studies 【続き】	Global Justice and Pragmatism	
		<p>What is the point, purpose or function of political theory and political philosophy? Why do we need it and what role does it play in helping us address problems of political and social life? This course addresses these and related questions through an examination of the central methodological debate over ideal vs. non-ideal theory in political philosophy and its connections to the promotion of a more just society (both domestically and globally). We will begin with the examination of John Rawls' s ground-breaking work on justice and consider global extensions of his view by Pogge and Moellendorf. Next, we will seek to understand the key methodological debate over whether political philosophy should begin with an ideal conception of justice (ideal theory) or start from non-ideal circumstances like injustice (non-ideal theory). With this background in place, we will turn to the pragmatist philosophical tradition and its emphasis on clarifying theories, concepts and hypotheses by establishing their connections to human practice and experience. While frequently critical of theory and its uses in philosophy, pragmatists generally seek an improved understanding of the relationship between theory and practice. In the process, they argue that the relevance of theory in its various formulations must be measured in terms of its practical consequences. We will wonder how this perspective on the theory-practice relationship contributes to our understanding of the role of theory in political life, and how this might inform the debate concerning ideal vs. non-ideal theories of justice. Students will be encouraged to assess these and related issues through a variety of case studies and examples.</p> <p>「グローバル正義とプラグマティズム」：当科目は、政治哲学における理想理論と非理想理論をめぐる方法論的討論をより公正な社会の実現促進に結び付けて考察することで、政治理論や政治哲学が政治的・社会的問題への取組にどれほど有用なのか検討する。まず、ロールズの正義論をふまえ、正義をめぐる理想理論と非理想理論との討論を理解する。続いて、プラグマティストの理論、概念、仮説を明確にしていく。学生はさまざまな事例研究を通して、現実の政治的課題の理解における政治哲学の有用性を考察することが求められる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
Electives 【続き】	Peace Studies 【続き】	Human Security and Human Rights	<p>This course explores the intersection of human security and human rights – conventionally two distinct subfields within the broader discipline of international relations. Human security has been defined with the UNDP Report in 1994, whereas human rights – a much older concept – has been developed within domestic constitutions for centuries, and universalized with the adoption of the 1948 Universal Declaration. The course will clarify the distinction between human security and human rights, establishing a conceptual clarity and operational synergy between the two. It will connect the concepts with contemporary international events, will address recent violations and human insecurities resulting from natural disasters. It will include discussion on the laws of war, conflict prevention, peacekeeping, peacebuilding, humanitarian intervention, transitional justice etc. The questions to debate are: What are the elements of human security and how did the concept develop? How human rights treaties improve human rights performance? What is common and different between human security and human rights? Are human rights universal or culture-related? What are the limits of enforcing human rights through the state system? How is human security specifically threatened by human-made disasters, and how is it threatened by natural disasters and climate change? What responses are necessary to mitigate these threats? How can the international community and United Nations coordinate these responses?</p> <p>「人間の安全保障と人権」：当科目は、人間の安全保障と人権という二分野が交差する問題を探求する。概念の明瞭性と両者の相乗作用をあきらかにすることで、人間の安全保障と人権の相違を明確にする。また、人道的介入、平和構築や移行期正義といった現実の国際社会での諸事象、及び自然災害によって引き起こされる人権侵害や不安全の問題にも取り組む。国際社会における人権擁護体制の課題、人間の安全保障への脅威としての人災・自然災害・気候変動、脅威への対応に果す国際社会の役割などをめぐる討論を進める。</p>	
		Critical Race and Gender Studies	<p>This course proceeds in three modules -- race, gender, and privilege -- to examine critical academic and socio-political resistance to, and contestation of, categories that have been used to entrench a putatively beneficial status quo in politico-socially hierarchical cultures. There will be a sustained emphasis on connecting course topics with students' own daily lives and home communities, and, through introduction to auto-ethnography as a crucial methodology for each of these "critical studies," a sustained emphasis on the ethical importance of learning to speak responsibly from one's own political and social position.</p> <p>「批判的人種・ジェンダー論」：当科目は、人種、ジェンダー、特権という三つの側面から、政治社会的な階層文化において一般的に有益とされる現状を確立してきたとみなされるものへの批判的学術研究と政治的・社会的抵抗、またこれらをめぐる論争を検討していく。学生には、批判的研究における重要な方法でもあるオートエスノグラフィーを通して、授業で取り上げる論点を自身の日常生活や出身のコミュニティと結びつけて考察させる。また、自身の政治的・社会的立場への責任を伴って語ることの倫理的な重要性を学ばせ</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	Peace Studies 【続き】	<p style="text-align: center;">Women's Studies</p> <p>This course will offer students a politico-philosophical overview of women's status generally and typically, in cultures around the world. Student will also learn multidisciplinary perspectives; a historical overview of women's national and international struggles for political and social equality; and a politico-social overview of some of the gender-related challenges we are facing in our globalized world. Course assignments have been constructed to reflect the multidisciplinary concerns of each field, and to explore the methodology of Women's Studies.</p> <p>「女性学」：当科目は、世界各地の諸文化において共通する女性の地位、並びに各文化に独自の女性の地位について政治哲学的に概説する。続いて、政治的・社会的平等を求める女性の国内及び国際的な闘争について歴史的に俯瞰し、さらに、グローバル化する世界が直面しているジェンダーに関する政治・社会的諸課題を分析することで、学際的観点を学ぶ。様々なディシプリンに応じて構成する研究課題を通して、女性学研究に関する方法論を探求する。</p>	
	Philosophy and Human Rights	<p>This course explores some of the ways that political philosophy has attempted to theorize and justify the commitment to human rights that has slowly been emerging as an international framework for human societies. We begin with a historical narrative of how the idea we now refer to as "human rights" developed in the ancient world, through guarantees of religious toleration and expansive notions of citizenship, and then acquaint ourselves with some of the canonical documents of global human rights discourse. From this standpoint, we can begin to assess the merits and shortcomings of philosophical articulations of rights, including the slippage between human rights and civil rights, and the need to oppose human rights discourse to existing structures of social privilege. The course will conclude with speculations about the future of thinking about human rights.</p> <p>「哲学と人権」：当科目は、国際的な枠組みとなりつつある人権への取組を理論化、正当化しようとする政治哲学的試みを探求する。まず、今日の我々が「人権」としている考え方が、古代世界において宗教的寛容の保証、市民観念の拡大を通して発展してきた過程を学ぶ。続いて、グローバルな人権の論説に関する基本的資料に精通することをめざす。そのうえで、権利概念の哲学的精緻化の利点と短所について、人権と市民権との齟齬や既存の社会的特権に人権で対抗する必要といった問題を含めて検討し、今後の人権思想を考察する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	Peace Studies 【続き】	Globalization and Migration	<p>International migration continues to be of significance in our world today. Issues such as undocumented migration, immigrant integration, refugees and asylum seekers, citizenship, and multiculturalism, raise concerns regarding immigration controls and policies of receiving states. While globalization has become synonymous with increasing human mobility, paradoxically, nation-state borders have increasingly become secured, militarized, and closed. Nevertheless, migration is gradually changing the face of the globe and at the same time, changes the migrants themselves. This course is a survey of current theories and contemporary debates on migration, focusing on selected cases from around the globe. It starts by looking at current trends in migration and introduces theories and perspectives that are used to analyze and understand human mobility in the contemporary world. Next, various issues that have implications on both receiving and sending states will be taken up, along with several challenges that migrants and people on the move face regarding their identities, culture, families, as well as displacement, dislocation, and belonging.</p> <p>「グローバル化と移民」：近年、不法移民、移民統合といった争点が入国管理や移民受入政策への関心を高め、グローバル化による人の移動が、国境の警備強化や閉鎖といった逆説的現象を起こしている。当科目は、こうした動向をふまえて、現代世界における人の移動をめぐる諸問題を理解・分析するための理論を紹介する。その後、いくつかの事例に焦点をあて、アイデンティティや文化、家族など移民が直面する課題に沿って移民の送出国と受入国にみられる問題を分析し、難民に関する近年の議論を検討する。</p>
	Internships	Internship I	<p>Students registering for this course will search and participate in an internship program that are related with their academic interests or with their research project for a master's thesis. The internship program may be organized by domestic or international governmental organizations, and non governmental institutions. In the beginning of the school year, three sessions are held to give students instructions regarding how to find and organize an appropriate internship program for their graduate studies. At the end of the school year, students submit and present a report on their internship experiences in class sessions. Grading for this course is to be made on a successful demonstration of appropriate outcomes by students for their academic interests or research project.</p> <p>「インターンシップ I」：当科目を履修する学生は、各自の学修分野や修士論文の研究課題に関わる研修内容を有する国内外の国際機構・政府機関・非政府団体等が実施するインターンシップ・プログラムを自ら検索・応募し、参加する。インターンシップの検索・応募方法等に関する事前研修を授業内で行い、各自の課題に合わせたインターンシップの手配・計画を指導する。さらに、インターンシップ参加後の研修報告を授業内で行い、本研究科の学修成果として相応しい研修内容が認められれば合格とし、単位を認定する。</p>

授 業 科 目 の 概 要

(国際平和学研究科国際平和学専攻)

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
Electives 【続き】	Internships 【続き】	Internship II	<p>Students who have already taken Internship I will register for this course. The students will search and participate in an internship program that are related with their academic interests or with their research project for a master's thesis. The internship program may be organized by domestic or international governmental organizations, and non governmental institutions. At the end of the school year, students submit and present a report on their internship experiences in class sessions. Grading for this course is to be made on a successful demonstration of appropriate outcomes by students for their academic interests or research project.</p> <p>「インターンシップ II」：当科目は、既に「インターンシップ I」を履修している学生が履修する。学生は、各自の学修分野や修士論文の研究課題に関わる研修内容を有するインターンシップ・プログラムを自ら検索・応募し、参加する。インターンシップの検索・応募方法等に関する事前研修を授業内で行い、各自の課題に合わせたインターンシップの手配・計画を指導する。さらに、インターンシップ参加後の研修報告を授業内で行い、本研究科の学修成果として相応しい研修内容が認められれば合格とし、単位を認定する。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校を取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

学校法人創価大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度				平成30年度				変更の事由		
		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		入学 定員	編入学 定員	収容 定員		
				3年次						
				人						
創価大学				創価大学						
経済学部	経済学科	200	—	800	経済学部	経済学科	190	18	796	定員変更 (△10) /3年次編入学 定員変更 (18)
法学部	法律学科	250	—	1,000	法学部	法律学科	240	8	976	定員変更 (△10) /3年次編入学 定員変更 (8)
文学部	人間学科	370	—	1,480	文学部	人間学科	350	40	1,480	定員変更 (△20) /3年次編入学 定員変更 (40)
経営学部	経営学科	200	—	800	経営学部	経営学科	190	26	812	定員変更 (△10) /3年次編入学 定員変更 (26)
教育学部	教育学科	80	—	320	教育学部	教育学科	80	—	320	
	児童教育学科	100	—	400		児童教育学科	100	—	400	
理工学部	情報システム工学科	80	—	320	理工学部	情報システム工学科	80	—	320	
	共生創造理工学科	100	—	400		共生創造理工学科	100	—	400	
看護学部	看護学科	80	—	320	看護学部	看護学科	80	—	320	
国際教養学部	国際教養学科	80	—	320	国際教養学部	国際教養学科	90	—	360	定員変更 (10)
計		1,540		6,160	計		1,500	92	6,184	
[通信教育部]				[通信教育部]						
経済学部	経済学科	2,000	—	8,000	経済学部	経済学科	1,000	100	4,200	定員変更 (△1,000) /3年次編入学 定員変更 (100)
法学部	法律学科	2,000	—	8,000	法学部	法律学科	1,000	100	4,200	定員変更 (△1,000) /3年次編入学 定員変更 (100)
教育学部	教育学科	300	—	1,200	教育学部	教育学科	300	—	1,200	
	児童教育学科	350	—	1,400		児童教育学科	350	—	1,400	
計		4,650		18,600	計		3,400	300	14,200	学部における通信教育の開設 (認可申請)
創価大学大学院〈修士課程〉				創価大学大学院〈修士課程〉						
文学研究科	国際言語教育専攻	15	—	30	文学研究科	国際言語教育専攻	15	—	30	
創価大学大学院〈博士前期課程〉				創価大学大学院〈博士前期課程〉						
経済学研究科	経済学専攻	15	—	30	経済学研究科	経済学専攻	15	—	30	
法学研究科	法学専攻	15	—	30	法学研究科	法学専攻	15	—	30	
					国際平和学研究科	国際平和学専攻	16	—	32	研究科の設置 (届出)
文学研究科	英文学専攻	10	—	20	文学研究科	英文学専攻	10	—	20	
文学研究科	社会学専攻	10	—	20	文学研究科	社会学専攻	10	—	20	
文学研究科	教育学専攻	15	—	30	文学研究科	教育学専攻	15	—	30	
文学研究科	人文学専攻	8	—	16	文学研究科	人文学専攻	8	—	16	
工学研究科	情報システム工学専攻	30	—	60	工学研究科	情報システム工学専攻	30	—	60	
工学研究科	生命情報工学専攻	20	—	40	工学研究科	生命情報工学専攻	20	—	40	
工学研究科	環境共生工学専攻	25	—	50	工学研究科	環境共生工学専攻	25	—	50	
創価大学大学院〈博士後期課程〉				創価大学大学院〈博士後期課程〉						
経済学研究科	経済学専攻	5	—	15	経済学研究科	経済学専攻	5	—	15	
法学研究科	法学専攻	3	—	9	法学研究科	法学専攻	3	—	9	
文学研究科	英文学専攻	5	—	15	文学研究科	英文学専攻	5	—	15	
文学研究科	社会学専攻	5	—	15	文学研究科	社会学専攻	5	—	15	
文学研究科	教育学専攻	2	—	6	文学研究科	教育学専攻	2	—	6	
文学研究科	人文学専攻	4	—	12	文学研究科	人文学専攻	4	—	12	
工学研究科	情報システム工学専攻	4	—	12	工学研究科	情報システム工学専攻	4	—	12	
工学研究科	生命情報工学専攻	4	—	12	工学研究科	生命情報工学専攻	4	—	12	
工学研究科	環境共生工学専攻	3	—	9	工学研究科	環境共生工学専攻	3	—	9	
創価大学大学院〈専門職課程〉				創価大学大学院〈専門職課程〉						
法務研究科	法務専攻	28	—	84	法務研究科	法務専攻	28	—	84	
教職研究科	教職専攻	25	—	50	教職研究科	教職専攻	25	—	50	
計		251		565	計		267		597	
創価大学別科				創価大学別科						
日本語研修課程		35	—	35	日本語研修課程		35	—	35	
特別履修課程		40	—	40	特別履修課程		40	—	40	
計		75		75	計		75		75	
創価女子短期大学				創価女子短期大学						
現代ビジネス学科		150	—	300	国際ビジネス学科		250	—	500	学科名称変更・定員変更 (100)
英語コミュニケーション学科		100	—	200	英語コミュニケーション学科		0	—	0	平成30年4月学生募集停止
計		250		500	計		250		500	